

統合報告書分析レポート

CEO/CFOメッセージ

主任研究員 多田 尋一

当レポートでは、2023年9月末までに統合報告書を発行した企業を対象に、CEOメッセージとCFOメッセージの記載状況を調査した。

レポート サマリー

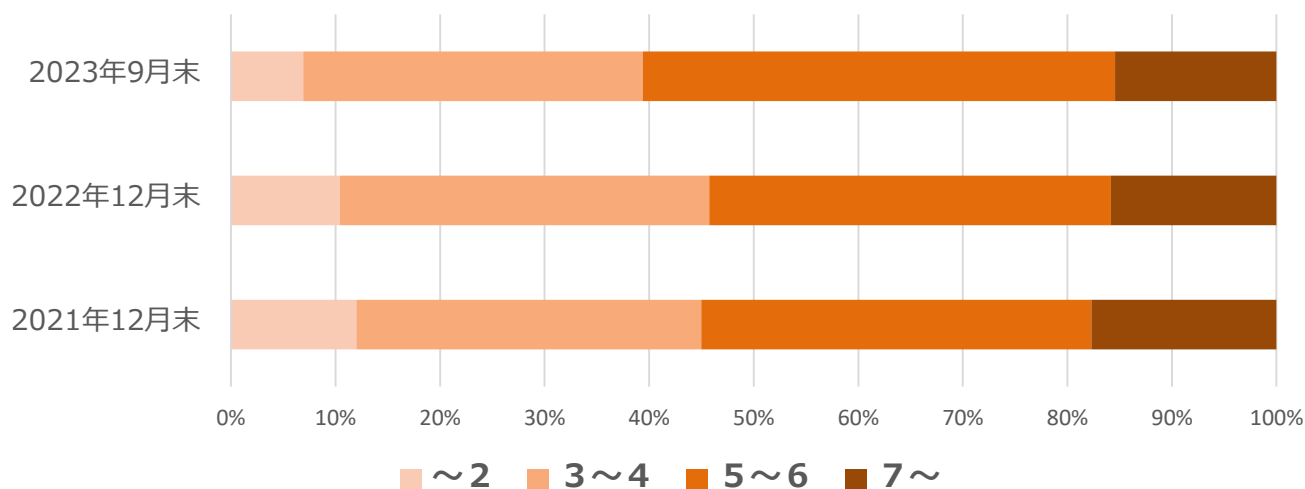
- CEOメッセージの掲載ボリュームは5～6ページの企業が大幅増
- CFOメッセージ掲載企業は前年からさらに増加、記載も拡充傾向

統合報告書における経営者からのメッセージは、企業の目指す方向性や中長期の戦略、ビジョンとその実現に向けた進捗を端的に確認できる内容であり、経営のかじ取りを担うリーダーの経営思想を知りえる面からも読者にとって最も関心の高いコンテンツといえる。

統合報告書は将来に向けた成長戦略に重点が置かれているため、旧来見られた「ご挨拶」のスタイルからインタビュー形式等への移行や、COOやCFOを含めた経営チームとしてのコミット発信、など理解と共感を得られるよう工夫した事例も珍しくなくなってきている。

今回の調査対象である2023年9月末時点（中間発表）の統合報告書発行企業は622社（比較対象は2022年12月末の872社）におけるCEOメッセージの紙面ボリュームを調査したところ、5～6ページの企業が全体の45.2%（281社）の割合で最多だった。全体に占める5～6ページの占有率は、前年12月末の38.4%（335社）から6.8ポイントも上昇している中、2ページ以下の企業は10.4%（91社）から6.9%（86社）と3.5ポイントダウンしていることから、CEOメッセージに紙幅を割き、充実化を図る傾向がみとれる。

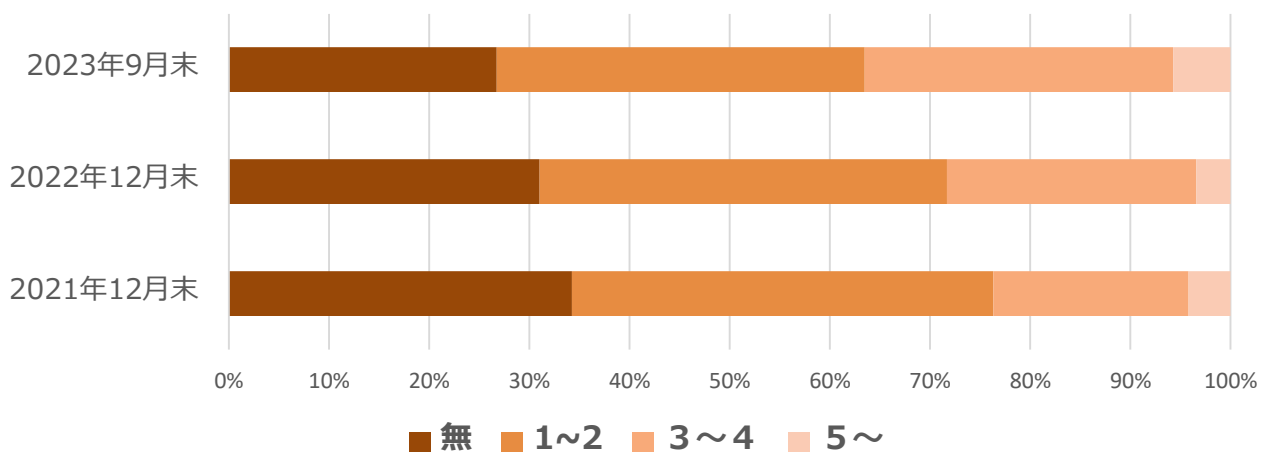
CEOメッセージのページ数



経営トップの右腕であるCFO（最高財務責任者）は、ファイナンス（資金調達・投資）の観点から、成長投資に充てる原資創出のためのコスト削減や業績評価指標の策定、資金の最適配分の立案などを通じた経営戦略の旗振り役など、経理や財務管理にとどまらない役回りを担う存在として、統合報告書でのメッセージの発信が期待されている。CFOもしくはそれに類する担当役員からのメッセージの掲載の有無を調査したところ、掲載企業の割合は63.5%（622社のうち395社）となり、調査開始から初めて50%を超えた前年12月末の55.0%（872社のうち480社）から、さらに8.5ポイントアップした。CFOメッセージの紙面ページ数についても、最多割合は1～2ページの50.1%（198社）だったものの前年から8.9ポイント減少し、3～4ページの企業が42.0%（166社）と前年から6ポイント増加し、ボリュームアップが進んだ。

こうしたCEOメッセージとCFOメッセージの充実化の背景には、株主・投資家との建設的な対話への意識の変化があろう。2023年3月に東京証券取引所がプライム市場とスタンダード市場上場会社に対する「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応策に関するお願いについて」と題した通知文を公表するなど、企業と投資家との建設的な対話が求められる中で、統合報告書におけるマネジメントによるメッセージ発信は対話促進のための1つの手段として、より一層重要性が高まっている。ただ、統合報告書全体のページ数が膨張傾向にあり、読み解く負担が大きいという声もある中で、メッセージもやみくもに増やせばいいというものではない。企業固有のステークホルダーの関心事を踏まえ、企業として伝えたいポイントを踏まえ、建設的な対話につながる共通の理解・認識の醸成に資する発信が問われてくるといえる。

CFOメッセージのページ数



（出所）株式会社宝印刷D & I R研究所の調査による